



～戮力協心～ NO.47

2023年5月25日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

復帰51年！5.15沖縄平和研修開催！ その2

○南風原文化センター・沖縄陸軍病院南風原壕群20号

沖縄戦に備えて人工的に掘られた壕で、数多くの負傷兵が運び込まれ、医療活動が行なわれました。ひめゆり学徒隊も動員されています。戦況の悪化から撤退命令が下ると、動けない負傷兵には青酸カリが配られ、自決も強要されました。近くにはひめゆり学徒隊が食事を運ぶときに通った「飯あげの道」も残り、実際に通ることができます。当時は砲爆撃の中、急な山道を命がけで駆けました。



○魂魄の塔・平和の礎

沖縄戦では、住民や軍人が米軍に南部へと追いやられ、多数が犠牲となりました。沖縄本島南部の米須一帯は、戦後の開墾に影響が出るほど、周囲の田畑や道に多くの遺骨が放置されていました。この遺骨を一箇所に集め、周囲を石で積み上げ納骨堂としたものが“魂魄の塔”で、3万5千余柱が集められました。しかし、政府の意向により現在は戦没者中央納骨所に遺骨が移されています。



“平和の礎”は、沖縄戦の全ての犠牲者の氏名が刻まれています。その数は24万余にも上りますが、新たに判明した戦没者や遺族からの申請により追記されます。沖縄戦がいかに壮絶で、多数の被害をもたらしたのかを、自らの目で見て感じるすることができます。